愛媛県総合科学博物館研究報告，№3，73－108，(1998)

別子銅山産業遺産の残存状況について
～新居浜市端出場周辺～

橋　本　久美子*

The Remaining State of the Industrial Heritage of the Besshi Copper Mine
～Hadeba Area, Niihama City, Ehime Prefecture～

Kumiko HASHIMOTO

The Besshi coppermine in Niihama City, Ehime prefecture distinguished as one of the most productive coppermines in Japan, had produced about six hundred fifty thousand tons of copper from 1691 to 1973. Although coppermining no longer continues, the remnants of the buildings and equipment can still be seen. This industrial heritage is invaluable for giving an account of the Besshi coppermine in full flourish. In this report, the nature and condition of the coppermining remnants around the Hadeba area where the coppermining center was located from 1930 to 1973, is described.

は　じ　め　に

別子銅山は，1691（元禄４）年から1973（昭和48）年までの283年間稼行し，65万ｔもの銅を産出した日本屈指の銅山である．現在，採掘していた当時の施設はほとんど取り壊されているが，残存している施設等は，別子銅山の歴史を物語る貴重な実物資料といえる．散逸が進みがちな産業遺産(1)の分野であるがゆえに，現時点での遺産の残存状況を記録しておく必要があると考え，調査を開始した．今回は，新居浜市端出場周辺を取り上げ，文献調査及び聞き取り調査をもとに，現地調査を行ったのでここに報告する．

調　査　地　の　概　要

新居浜市内の国道11号から，国領川沿いに走っている主要地方道，新居浜別子山線を南へ約５㎞進んだところに，端出場という地域がある（図１）．ここは，昭和５年から昭和48年まで，別子銅山の採鉱本部(2)が置かれた場所である．それまで採鉱本部が置かれていたのは，海抜約760m 東平という地域であったが，採掘が年々下部鉱床へと移行するに従い，採掘した鉱石を集めるのも，より低い所にする方が都合がよくなった．そして，昭和５年５月，別子の採鉱本部が東平から海抜約156m の端出場に移された(3)．昭和５年までの出鉱状況の移り変わり（表１）でも，大正末期から採鉱の中心が８番坑道水準以下の下部に移行し，下部（９番～15番）の出鉱量が1918年の37％から1930年の87％へと上昇しているのが明らかである(4)（図２）．この端出場に採鉱本部があった当時は，20分毎に瀬戸内バスの便があり，１日３交替の８時間勤務で，2,200人の人々が交替で入・出坑していた(5)．ここでは，採鉱本部事務所や貯鉱庫，選鉱場，索道停車場，端出場駅，電車庫，修理工場，配給所，病院，郵便局，集会所，浴場，社宅，学校などの施設が集まり，多くの人が銅山で働き，銅山とともに生活をしていた（写真１・２・３）．

現在は，当時の施設はほとんど撤去され，観光施設マイントピア別子が建てられている（写真４）．平成３年に完成したこの施設は，鉱山鉄道跡や坑道跡を利用した観光施設で，毎日多くの観光客で賑わっている．今回は，この端出場を中心として下部鉄道廃線跡及び鹿森，打除を含む範囲（図３）を調査の対象地域として取り上げた．

調　査　結　果

１　産業関連

貯鉱庫

現在，端出場の図４－１地点に，貯鉱庫の跡が残っている（写真５）．高さ約15m・横幅約35m の巨大な貯鉱庫には，かつて大量の鉱石が坑内から運びだされ，ここに貯められていた．貯鉱庫の上をちょうどダンピングカー(6)が通るようになっていて，この上で鉱石が入っている箱の扉が開き，鉱石が貯鉱庫に落ちて貯まっていた(7)．この端出場にはじめて選鉱場ができたのは，大正８年の２月である(8)．仮の手選鉱場ではあったが，

＊愛媛県総合科学博物館　学芸課　産業研究科
Dept.of Industry Ehime pref. Science Museum

図１　調査地域　国土地理院発行１／50,000地形図「新居浜」より作成
図中の枠線は，図３の範囲を示す
図中の点は，東平の位置を示す
図中の太線は，下部鉄道廃線跡調査地域を示す

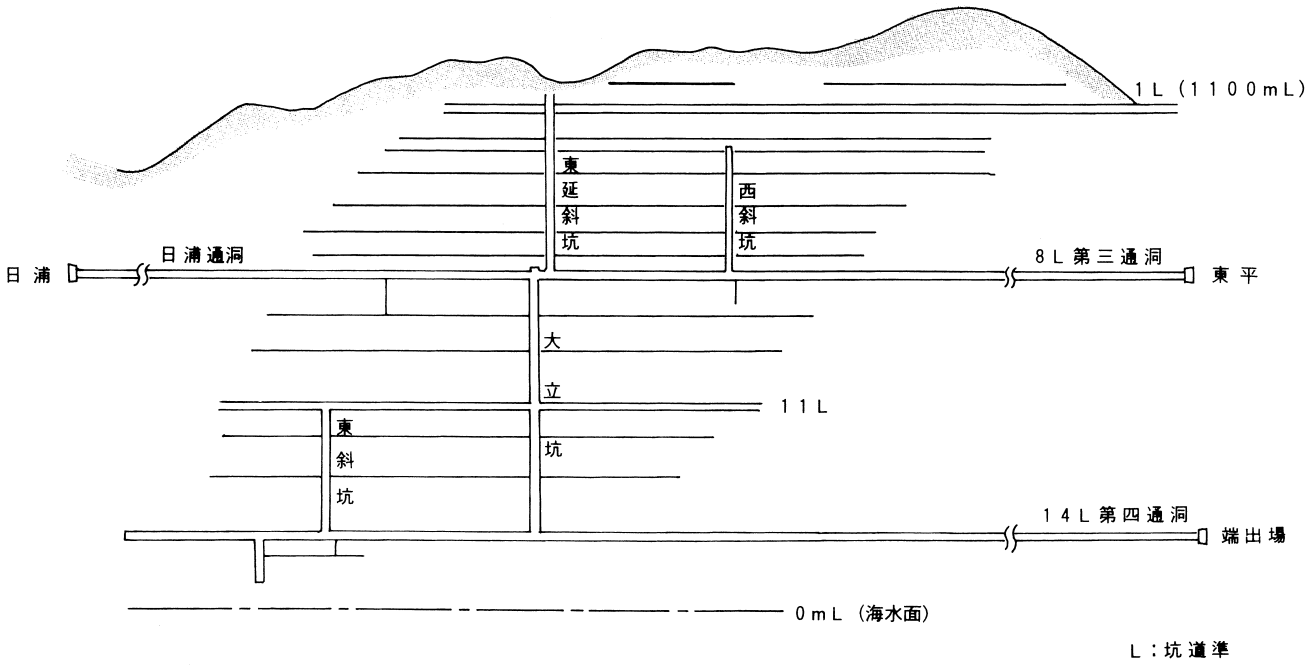

図２　別子本山坑内図（昭和初期）住友別子鉱山史下巻 p164坑内図より作成

表１　出鉱状況の移り変わり
（大正７年～昭和５年）武田晴人（1987）：日本産銅業史，（財）東京大学出版会，東京．p269より作成

坑　道		各坑道の出鉱量（千トン）及び上部・下部の比較(%)											
		1918（大正７）年			1920（大正９）年			1927（昭和２）年			1930（昭和５）年		
		坑道別	計	比率	坑道別	計	比率	坑道別	計	比率	坑道別	計	比率
上部	1～3	28.4	207.9	63%	24.6	175.4	55%	20.4	94.8	25%	25.0	51.0	13%
	4	43.7			28.0			—					
	5～6	94.5			84.7			29.4					
	7	41.3			38.1			45.0			26.0		
下部	9	48.0	123.6	37%	36.8	145.5	45%	60.6	285.2	75%	28.0	335.0	87%
	10	56.2			52.9			58.4			43.0		
	11	19.1			53.1			64.8			57.0		
	12	—			—			69.0			78.0		
	13	—			—			20.4			69.0		
	14～15	0.3			2.7			12.0			60.0		
計		331.6	同左	100%	321.0	同左	100%	380.0	同左	100%	386.0	同左	100%